

# 通信小海

## すばらしい隣人のなかで

牧師 水草修治

あけましておめでとございます。南佐久郡のみなさま、遠隔地で通信を読んでくださっているみなさま、本年もよろしくお願いいたします。

昨年、十二月の第一日曜日、山谷支援の藤田寛さんが礼拝に見えて、いつになく青い顔をしておっしゃいました。「米は二十九日で、すべて尽きます。年末年始、十日間に必要な二トンがありません。どうしたらいいでしょう。」その後、第一週、「ご存知のように本紙で二トンのお米を募りました。毎日、神様に

### 「今月のみことば」

「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなし。」

詩篇一二七篇

天の窓をひらいて、山谷の方たちのために二トンのお米を与えてください。」と祈りました。結果、わずか二週間でぴったり二トンのお米が、この南佐久郡のみなさんからさげられました。私は「ああ、神様は生きておられる！」と心に叫びました。

昨年一年間で、南佐久で合計七トンのお米が提供されて、不況の嵐のなかで職と食を失ってこまっている方たちにお届けすることができました。南佐久に住む私は、なんとすばらしい隣人に囲まれているのだろうか、と誇らしいような気持ちです。

昨年年末トラックで山谷につれて行ってもらいました。白髪作業服、まだまだ働き盛りの大男、サラリーマン風の人、いろんな人が焚き火に集まってきていました。仕事をしなくてしたくてたまらないのに、四十五歳をこえるともう雇ってくれる人がいないのです。「なまくらなホームレスに、汗水たらし

日本同盟基督教団 小海キリスト教会 牧師 水草修治

会堂・牧師館 長野県南佐久郡小海町大字小海四三三五 二七

〒三八四一一 二二 二六七九二四七七六

郵便振替 五三 六一六八三

## 見晴台の教会へどうぞ

(小海駅東の丘の上)

地図

## 集会あんない

日曜日 サンデースクール 午前八時半

朝礼拝 午前十時から十一時半

夕礼拝 午後七時半から八時半

\*一月十四日夕礼拝のみお休み。

水曜日 祈り会 午後一時半と午後七時半

\*八千穂・海尻・川上でも家庭集会あり。

\*個人的な聖書勉強や個人的なご相談にも乗ります。

て作った米をやらなければならぬ道理はない。「うううう」意見をいただくことがあります。聖書にも、「働きたくない者は、食べるな」とあります(第二テサロニケの手紙三十)けれども、山谷の人たちの多くは働きたいけれども、働き口がない人たちです。でも、こんなことを言っておさげてくださいました農家もありました。「米も野菜も、種をまいたら神様が作ってくれたもんだからな。」

昨年、小諸の山谷支援のための畑に、野外野宿者たちが来て、生き生きと汗を流していました。それは働くことができるという喜びの汗です。高度成長を支えて、道路やビルや橋を建設してきた人たち、滅私奉公の精神で会社づとめをしてきたのに、リストラに遭った人。政府には、働きたい者が働いてその収入で食べていけるような社会になるような施策を望みます。

凍つく路上で毛布をかぶって年末年始をすごさねばならないおじさんが、「ありがとう」と手を握ってくれました。私にはなくお米をささげてくださったみなさんに紙面を通じてこの「ありがとう」をお届けします。

不況はいつまで続くかわかりません。またよろしくお願います。

\* \* \*

ある日、イエスはガリラヤ湖のほとり、人里離れたところで五千人を前に神の国のよい知らせを話しておられました。群衆は着の身着のまま、イエス様についてきた人々です。そのつちに、日は西の空に傾き、弟子たちは気が気でなく言いました。「イエス様、人々を解散させてそれぞれ夕食を取るようになさってください。」するとイエスは弟子たちの信仰を試みておっしゃいました。「あなたがたで、彼らに食べさせてやりなさい。」弟子たちは当惑しました。

その時、一人の少年がイエスに五つのパンと二匹の魚を差し出しました。母親が持たせてくれたお弁当だったのでしよう。「そこでイエスはパンを取り、感謝をささげてから、すわっている人々に分けてやられた。また、小さい魚も同じようにして、彼らにほしいだけ分けられた。そして彼らが十分食べたとき、弟子たちに言われた。『余ったパン切れを一つも無駄に捨てないように集めなさい。』彼らは集めてみた。すると、大麦のパン五つから出てきたパン切れを、人々が食べたうえ、なお余ったもので十二の

かごがいっぱいになった。」(ヨハネ福音書六章)奇跡でした。

五千人を前にして、さあ、君たちでなんとかしなさいと言われて分別くさい大人の弟子たちは戸惑いました。でも、素直な少年は手元にあつたわずかなパンと魚を、「こんなものと思わないで差し出したのでした。そうしたら、主が祝福してすばらしいことをしてくださいました。小さなことでも、素直な心で主イエスの前に差し出せば、主が祝福してこれを用いてすばらしいことをしてくださいます。」

連絡先

お米と調味料(しょうゆ・塩・だしのもと)、毛布を必要としています。栄養のため炊込み御飯にして出すので、大根・ニンジンなども助かります。

小海町役場 九二二五二五

南牧村社会福祉協議会 九六二二六三

山谷農場:116-0003 荒川区南千住4丁目4-1  
ヤマト運輸(株)台東支店止め

藤田 寛 電話 090・1436・6334

カンパ: 千振替 二四 四・五三七九六

山谷農場

# 主が家を建てるのでなければ

## \*むなししい勤勉さ

「主が家を建てるのでなければ、建てる者の働きはむなししい。主が町を守るのでなければ、守る者の見張りも空しい。あなたがたが早く起きるのも、おそく休むのも、辛苦の糧を食べるのも、それはむなししい。」  
家を建てるというのは、人生の一大事、町を守ることもたいせつなことでしょう。暗いうちから畑で働き、星をいただいで畑から帰ってくる勤勉さは一般的に言うてよいことでしょう。けれども、どんなに努力して家を建てても、夜を徹して町を守っても、身を粉にして働いても、まことの神様、創造主なる神様を抜きにしては、人生、元も子もなくなってしまうです。  
「なんでもよいから一生懸命やればよい」

と言う人がいますが、冷静に考えれば、おろかしいことばです。結果が無駄にならないように、家を建て、町を守り、勤勉に働いてこそ賢明です。

空しいのは、ゴールが正しく定まっていなからです。聖書は言います。「ですから、わたしは決勝点がどこかわからないような走り方はしていません。」徒競争で、スタート地点にみなが立ち、号砲とともにスタートを切りました。ところが、一人だけ反対方向に猛スピードで走りだしたら、笑いやになるでしょう。たとえゆっくりペースでも、ゴールを見定めて走ればゴールに近づきますが、ゴールを見誤れば、一生懸命走るほどにゴールから遠ざかってしまいます。ところが、イエス様の目から見ると、人生というレースにあつては、大多数の人がゴールを見ないで、横の人ばかり見て滅びへと向かう競争をしているのです。

「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入っていく者が多いのです。いのちに至る門は小さく、その道は狭く、それを見出す者はまれです。」(マタイ7:13 14)

新しい年、私たちは新たなスタート地点に立って、「用意。ドン」と走りだしますが、横の人でなくゴールをしつかりと見定めなければなりません。

## \*横ばかり見て走ると疲れる

神様に背を向けて、ただ世間や人と比べて働くならば、必ず肉体的・精神的・霊的に無理が来ます。いつも不安でイライラしていることになります。だんなは、イライラをこまかすために、酒やギャンブルに走ったりして無駄遣いしています。そんなだんなを見ている奥さんはイライラして子どもに当たったり、キッチンドラムカーになったりして、家の中は殺伐として、子どもの成長によからぬ影響を与えます。また、無理な仕事と酒でからだをこわせば、医療費は莫大なものになります。これではいっただい、なんのための勤勉かわけがわかりません。これはむなししいことではないでしょうか。

でも、真の神様を信じないかぎりには、ただ忙しくむなししい人生をやめることができないうのが、私たち弱い人間の性なのです。ほんとうに私たちは弱い。だからこそ、神様を

見上げ、目を覚まして、「神を礼拝し、隣人を愛すること」という本物のゴールを見定めて進むとがたいせつなのです。滅びへの門は大きくその道は広く、そこから入っていく者が多い。だからこの世と調子をあわせないで、神様の御心に歩みたいものです。

## 2. 主が家を建て、主が町を守る

では、どのようにすれば、私たちの人生は空しくならないのでしょうか。実り豊かになるのでしょうか。それほど複雑なことではありません。単純なことです。それは、自ら家を建ててくださるといふ神様にゆだね、「神を礼拝し、隣人を愛する」といふ目的にしたがって優先順位を確立して生活することです。

北海道のある農家の体験です。この夫婦はクリスチャンになって、一つのことを実行することを決めました。それは日曜日を神様のために取り分けることでした。夏の短い北海道の農家にとっては、一見おろかしい決断でしょう。夏場かせがねばいつかせぐのか、と周囲の人々に馬鹿にされまし

た。

けれども、この夫婦は日曜午前は礼拝し、午後は折々クリスチャンの友達や近所の人をまねいて、ゆつくりすこすことにしたのです。そして月曜から土曜まで、勤勉に働きました。そういう原則にしたがって、最初から生産計画も無理をしないで立てました。

さて結果は、どうなったでしょうか。例年はいつも疲れ果てて、イライラしながらチムワークが壊れてしまつ働きはずつと気持ちよく楽しく働けるようになりました。家族の健康も守られましたから、医療費もかかりません。いつも喜びと平安に満ちてすこせますから、酒もたばこもギャンブルも無用になり、家族の対話の時間が生まれました。過剰な収入を見越せないので無駄遣いもしなくなりしました。

数年たつと抱えていた借金は消え、息子はクリスチャンのお嫁さんを迎えました。村中の人たちは、あの家はクリスチャンになって、金が出来て、嫁さんまできたと評判になったそうです。「主はその愛する者には、眠っている間に、このように備えてくださる。」というお言葉通りになったのです。

アーキもちよかった たのしかった

## 福音指圧教室

日時 一月二十七日(日)

午後二時から四時半

\*お一人でのご参加も歓迎。

\*持ち物バスタオル・くつした

\*無料です

雪かきが、腰に来ていませんか。肩に来ていませんか。ひざに来ていませんか。指圧はいいですよ。私は家内といっしょに先生に教えて、たいへん重宝しています。たのしい指圧教室で専門の先生から指圧を教わりましょう。気楽におたすねください。

「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく永遠のいのちを持つためである。」ヨハネ三十六